

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	内水排除整備事業	会計	一般会計	事業No.	544	施策順No.	41-010
		事業種別	政策・その他	予算科目	8-3-3-12-4		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	地域計画課		
施策	41 災害対策の推進		事業期間	開始	12	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	松尾地区の水害が想定される区域の市民の生命と財産(昭和58年9月10号台風での浸水被害面積57.5ha 床上浸水戸数26戸 床下浸水80戸、現在の戸数 民家67戸 アパート7棟 会社等79社 合計153)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		過去に被災した土地 (ha)	57.5	57.5	57.5	57.5	57.5	
		過去に被災した土地にある家屋等(戸)	153	153	153	153	153	
意図	天竜川へ流れ込む河川周辺を、洪水時の内水増加による浸水から排水ポンプにより未然に防止する 排水ポンプ操作員の技能確立と排水稼働までの準備時間の短縮							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	排水ポンプ整備により排水される水量(m3/分)	90	90	90	90	90	90	A
	排水操作までに要する時間(分)	30	20	20	20	20	20	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	内水排除訓練の実施により従事者の操作方法習得に努め目標を達成することができた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	天竜川が増水し、松尾地区から天竜川へ流出する河川(祝井沢川、金色洞沢川)の水位を上回った場合、逆流を防ぐためにひ門が閉鎖される。これにより、地区内河川の流出先がなくなるため、排水ポンプを操作し天竜川へ内水を排除する。 平成12年度から、排水ポンプ車を順次導入し、さらに職員、地元(竜水開発組合)、地元業者による内水排除体制を確立している。 災害時に適切な対応ができるよう、操作員の技量向上、機器の整備を行っている。 1号車 ブーム付き排水ポンプ車 (平成12年度導入 30m3/分)→平成23年度 排水ポンプ設備(30m3/分)更新、積載型トラッククレーン購入 2号車 クレーン付き排水ポンプ車 (平成12年度導入 30m3/分) 3号機 排水ポンプ設備 (平成15年度配備 30m3/分)		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 災害時の内水排除対応(待機含める) 2 排水訓練の実施(年間3回 4、5、7月) 3 毎月のポンプ車等定期点検の実施(年間12回) 4 排水ポンプ等の点検(10~11月)と車輛・機器の法定点検 5 天竜川上流河川事務所、飯田建設事務所との連携	1 災害時対応 2 訓練回数 3 点検実施回数 4 法廷点検回数 5 連携回数	1 2回 2 3回 3 12回 4 1回 5 1回
23年度実施計画	1 災害時の内水排除対応 2 排水訓練の実施(年間3回 4、6、8月) 3 毎月のポンプ車等定期点検の実施(年間12回) 4 排水ポンプ等の点検(10~11月)と車輛・機器の法定点検 5 天竜川上流河川事務所、飯田建設事務所との連携 6 ポンプ機器の更新及び購入(1号車 排水ポンプ設備更新、積載型トラッククレーン購入)	1 災害時対応 2 訓練回数 3 点検実施回数 4 法廷点検回数 5 連携回数 6 ポンプ機器更新及び購入	1 未定 2 3回 3 12回 4 1回 5 1回 6 1式

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (国)地域活性化・きめ細かな臨時交付金(10/10) 22→23繰越明許費 45,000千円
		県支出金	40,000			
		起債				
		その他				
		一般財源		6,508	1,507	
	計(A)		46,508	1,507	1,628	
	正規職員所要時間			500		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			1,788		
	トータルコスト A+B			3,295		

4 事業に対する市民や議会の意見

1 地元より祝井沢川ひ門の堤防にポンプ車のホースを横断させ、水防活動を効率的にすること、堤防道路を水害時でも使用できるようにする要望が出されている。
2 地元より祝井沢川ひ門における操作の安全性の確保及び排水効率の向上を求められている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞り者、財産の災害や火災の被害を軽減する	施策の成果指標又はムトス指標	市民が災害にそなえている割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	実動は平成18年度以降ないが、近年の異常気象から実動一歩手前の状況は毎年あり、日ごろの排水訓練を踏まえ、迅速に待機態勢をとることができた。		
	後期に向けた課題	新ポンプ車更新に伴う、従事者における操作方法の習得に努める。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	新従事者に対するの操作方法の習得も含め、従事者全員に毎年度定期的にひ門操作と並行して排水訓練を実施してきた。		
	後期に向けた課題	体制の維持(市職員および市民従事者の確保)に努める。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	機材の消耗(バッテリー等)を防ぐための定期的な稼働を行う。		
	後期に向けた課題	更新する1号ポンプ車の購入方法を踏まえて、2号車以降の購入経費を削減できる方法を検討する。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者は流域住民であるが、河川管理者としての災害防止事業であるため負担は求められない。訓練や実務での出勤の際には、地元と連携して協働で作業にあたっており労力の提供は行っていただいている。		
	後期に向けた課題	継続して行う。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	市が管理する河川からの内水被害であることから、市が主体となって実施している。災害発生時には、市職員のみでの対応が不可能であるため、地元と連携してそれぞれの立場で役割分担し、協働で作業にあたっていている。また、国、県との連携も図る中で被害を最小限にするための体制づくりや、市民との協働による訓練を実施し、安心、安全な地域づくりを目指す。		
	後期に向けた課題	継続して行う。		
全体を通じて	4年間の振り返り	内水排除訓練を年3回実施するとともに、機材の定期的な点検を毎月実施、従事者の操作方法の習得に努めた。		
	後期に向けた課題	内水排除作業について、いつでも稼働できる体制を維持していく上で、機材の点検、修繕、更新の充実を図るとともに、従事者の操作方法の習得に向け継続して対応にあたる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要があるかどうか	ない	対象や意図を修正する必要があるかどうか	ない	成果指標や指標値を修正する必要があるかどうか	ない
-----------------------	----	---------------------	----	------------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--